学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立伊予農業高等学校

評 価 実 施 日	令和7年2月13日(木)		
委員	氏 名	所 属 等	備 考
	岡部 悦雄	伊予商工会議所	
	高橋 宏文	栄養寺住職・伊予ロータリークラブ	
	徳本 典久	伊予市教育委員会 社会教育指導員	
	土居 幹治	マルトモ株式会社 専務取締役	
	中川 敦史	県中予地方局産業振興課 地域農業育成室長	
	喜安 光男	松前町社会福祉協議会長	
	久保 雄	伊予市立港南中学校校長	
	小田 清隆	元愛媛大学社会共創学部 准教授	
	中嶋 春圭	PTA役員	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導</p> <p>スローガンに「声出せ」とありますが、授業参観した際、発言するときの生徒の声が全体的に小さく聞き取りにくいように感じました。</p> <p>県指定の人権・同和教育研究は2年間の学びの成果が出てい思う。多くの資料から授業に必要なものを選択し、農業高校としての特色を生かしながら、「自分が今できることは何か」真剣に考え学んでいた。中高連携の取組も今後も続けてもらいたい。</p> <p>タブレットなどICT機器を活用したアクティブラーニングの推進や先生方の授業改善に取り組んでいる姿勢が数値にも表れている。</p> <p>生徒たちが、学習に向けての授業準備が整っており、授業や実験・実習への充実感が高く、その積み重ねが成績優秀者の大幅な増加にもつながっており、今後も継続した指導をお願いしたい。</p> <p>定期考査に向けての計画的な学習の数値は少し気になりますが、先生方が一人一人に寄り添う指導を丁寧に実践されていることが、生徒たちの学習意欲や成果につながっていると思う。</p> <p>(2) 生徒指導、人権教育</p> <p>挨拶の面では、地域の評価も年々下がっている。確かに以前より意識が低くなっているように思う。将来的な面において、社会生活を送る上で大切な基本的な生活習慣は学校生活で身に付けてもらいたい。</p> <p>さわやかな挨拶や基本的な生活習慣と規範意識の徹底を指導され、成果が表れている。</p> <p>交通事故の件が多いのが少し気になる。命に関わる問題として被害、加害者のどちらにもならないよう、安全な登下校になるための継続したご指導をお願いしたい。</p> <p>学校へ寄せていただいた際には、生徒たちはとても楽しそうに高校生活を謳歌しているように見え、とてもいい雰囲気だと思います。</p>	<p>今後も、ICT機器の活用やアクティブラーニングの推進など、より良い授業づくりを継続し、本校の生徒にとって分かりやすい授業の実践に努める。</p> <p>また、生徒一人一人に寄り添い、個に応じた指導を継続し、取り残さない指導も続ける。</p> <p>「分かる」「できる」といった成功体験を重ねさせて、学習意欲の向上につながる指導ができるよう努めるとともに、定期考査に向けて計画的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせることができるような学習指導を検討する。</p> <p>教員から挨拶をしていき、自ら挨拶するロールモデルとなり、挨拶をしやすい雰囲気づくりをする。</p> <p>街頭交通指導で登校中の生徒には注意喚起をしているが、ノーヘルや並進など交通ルールを守れていない現状がある。全校集会や学年集会時に自転車マナーについて講話を増やし、意識付けをする。</p>

様々な人権問題に対し自分事として考えられる(いじめを含め)正しい人権感覚と行動力を身に付けてもらいたい。

「学校生活の全ての場が人権教育の機会である」という認識は、今後も大切にしてもらいたい。

(3) 進路指導

第一希望への進学・就職ともに進路決定や、農業関係の関連の進学、就職も達成できているので、一人一人を大切にしながら進路指導が充実されている結果だと思う。日頃からの進路指導の充実や資格取得を是非継続してもらいたい。

進路指導が進学94.4%、就職98.3%は立派だと思う。伊予農で学んだことが生かせる進路(農業・生活関係)がもっと増えれば嬉しいです。

卒業時に生徒はもとより保護者にも納得いく進路に進むことが入学希望者の増加につながると思う。

今年度就農啓発講座を実施させていただき、多くの農業に興味をもっている若者がいることがうれしかった。今後も就農啓発講座の実施をお願いしたい。

(4) 特別活動

農業祭で生徒たちの準備運営が行き届き活気ある姿に感心しました。どの科、部活動でも自分たちの活動に自信と誇りをもって取り組んでいるように感じる。

特に運動部が活躍されており、活力のある学校になれていると思う。

ライフル射撃部は競技人口が少ないのはあるが、十分に成果が上がっている。

(5) 農業教育

生産と流通を学べることが強みです。地域に果物や植物等の販売を今後も続けてもらいたい。

学科ごとに情報発信されているHP等拝見しています。活動内容がタイムリーに発信されており、伊予農の活動の様子が良く分かります。

農業クラブ活動の成果はすばらしい。

農業クラブの「入賞を目標に」それも大事ですが、生徒がそれに向かって一生懸命に取り組む事も大切だと思います。資格取得状況が年々受検者も合格者も減少傾向なのは残念です。

農業クラブ活動の成果きめざましいものがある。その成果が新聞等に掲載されており、地域の人は良い評価をしている。

技術コンテストでの好成績が、教育の充実ぶりを示しているのだと思う。より上を目指してほしいと思う。

(6) 教育活動全般

ホームページ閲覧回数増加は、学校や生徒たちに対する関心が高まっているという点で良い傾向にある。

地域社会・関係諸機関との連携に努め、開かれた学校づくりに努めていることは教職員アンケートからも伺える。

教職員の意見が学校経営が生かされているのは、PDCAサイクルが確立できている表れだと思う。それは、生徒指導における適切な対応に生かされていると思う。

ホームページが定期的に更新され、見やすく魅力あるホームページ作りが推進されている。今後も継続的な情報発信をお願いしたい。何より保護者や生徒が見たい、知りたい情報を発信するツールとなっていることがありがたい。

生徒自らが考え行動する場面を増やすことで、人権問題を見抜く力を養うとともに問題解決に取り組む行動力を育成する。また、学校生活のすべての場が人権教育の機会であることを認識し、全教職員が生徒の学校生活全般をしっかりと見守り、時を逃さず適切な指導を行う。

第一希望の進路実現を遂げた生徒が就職・進学後も充実して生活できるように、基礎学力・社会人基礎力の定着を図る。

生徒・保護者への情報提供と進路相談が手厚くできるよう、担任・学科と連携を取って指導を進める。

農業関連分野への就職率に関しては、農林業の職種が他と比較して極端に求人が少ないのが現状である。数少ない農業法人でさえ南予地域より少なく、自宅からの勤務を希望する生徒たちの進路にはなりにくい。本校で学んだことを生かせる関連分野の進路として、進学を経ることも含めて検討させる。

校内の農業祭では生徒会が中心となって学校全体を盛り上げることができた。他の学校行事についても、生徒が活躍できる場を設定し、自主性を育てていく。

部活動では、令和7年度から「魅Can部」としての活動もスタートする。中学校や地域に情報発信し、充実した活動になるよう準備をしていく予定である。また、各部が、ホームページを利用できるように周知する。

農業クラブ活動や各種コンテストの成果は、入賞率で見るとまだまだ向上の余地がある。もちろんプロセスも大切ではあるが、入賞することにより生徒自身の自信や自己肯定感の向上につながるため、日ごとの活動の充実の先に結果が残ればベストだと思う。これからも農務課教職員一同、頑張っていきたい。

資格取得については受験料が発生するため、学科や教科、科目によってはあらかじめ受験料を徴収して全員挑戦させている講座もあるが、なかなか強制することは難しい。せめて合格率を上げることができるよう努めていきたい。

教育環境が生徒を育てることを意識して、教育環境を整え、本校に誇りを持って卒業する生徒の育成に努める。

生徒の活動を中心に、日々の学校の様子をできるだけ多く更新してきた成果である。今後も生徒を主体とした伊予農の良さがアピールできるホームページ作りに取り組む。

特別指導、交通事故が0になるよう、マナー、ルールに関する指導に継続的に取り組んでいきたい。

各学科が毎日更新を目標に、日々の学校の様子分かる、生徒、保護者が見たい、知りたい情報発信に努めていきたい。